

児童と教職員が共に学び合う人権教育の在り方

長期研修員 西 辻 政 則

Nishitsuji Masanori

要 旨

同和教育の成果を受け継ぎ世界の実践に学びながら人権教育を構築していくためには、教職員がきめ細かく日々の実践をするとともに絶えず主体的に研修することが重要である。様々な体験や人との出会い及び地域との学び合いの意義について考察し、研究授業を核とした校内研修モデルプランを作成した。研修で培った力が、学校における人権教育推進の原動力となると考える。

キーワード： 同和教育、人権教育、教職員研修、自己実現、人権感覚、学び合い

1 はじめに

これまで取り組まれてきた同和教育では、部落問題をはじめとする様々な人権の問題の解決に向けて、差別の現実から深く学ぶことを大切にしながら、児童生徒の就学の推進、学力の向上、教育の機会均等と進路の保障を目指して、支え合う集団づくりや参加・体験型学習、指導方法の工夫・改善、校種間連携等の多様な取組を行ってきた。それは、長期欠席や不就学児童生徒の解消、高校進学率の上昇など一定の成果を上げるとともに、児童生徒に豊かな人権感覚をはぐくんできた。

今日、「同和教育の成果と教訓を生かしながら人権教育の創造と広がりを目指す」実践が進められる中、学校が取り組まなければならない教育課題の範囲は年々広がりを見せている。そこで人権教育を推進する上での課題として、基盤となる人権感覚を確立する課題、差別問題・人権侵害を克服する課題、同和問題の解決に関する課題等に対する知識・技能・態度を児童生徒に身に付けさせ、これらの課題に対し主体的に考え行動させるため、人権教育をどのように構築していけばよいか、今日の状況を踏まえながら考察していきたい。

さらに、教職員が人権教育を推進する上での教材開発や授業のための研修方法、校外との連携・交流、校内の人権教育の研修体制について研究し、今後の人権教育の在り方についても明らかにしていきたい。

2 研究目的

人権教育を推進するための教職員の研修の在り方と人権教育の学習内容についての考察

3 研究方法

- (1) 人権教育の現状と課題についての分析
- (2) 教職員の人権感覚を高めるための研修についての考察
- (3) 学校、家庭、地域の連携についての考察
- (4) 校内研修モデルプランの作成

4 研究内容

(1) 人権教育の現状と課題

今日、同和教育から人権教育へと移行するに当たり、単なる名称変更であるとか、部落問題を回避するための置き換えであるといった、人権教育に対する誤解や危惧、戸惑いの声の一部にあるのは事実である。

同和教育がすぐれた人権教育であり、その成果を引き継いでいかなければならないことは言うまでもない。しかし、マンネリ化、形骸化して、知識注入型、結論押し付け型の学習に陥ってしまい、児童生徒や保護者・地域住民に、学ぶことへの忌避感を生みださせてしまったという反省もあったのではないだろうか。

また、今日の社会の急激な変化は新たな人権問題を生み、家族の在り方や地域社会の質の変化は学校に対する新たな役割を求め、さらに家庭教育力及び社会教育力の低下も危惧されている。それらに対して学校は危機感に乏しく、また従来の発想から脱けきれず、その対応が不十分であると、池田寛は著書『地域と学校のつながりと協働を求めて』で述べている。したがって、今こそ学校は、広い視野と新しい発想でもって人権教育を構築していかなければならない。

人権教育の今後の在り方については、平成8(1996)年に出された地域改善対策協議会意見具申や、平成9(1997)年の「人権教育のための国連10年」国内行動計画で、人権教育には「固有の問題点についてのアプローチ」と「普遍的な視点からのアプローチ」があり、「その両者が相まって人権意識の高揚がはかられる」と述べられている。

これまでの同和教育では「固有の問題点についてのアプローチ」に重点が置かれ、その成果として、人権は大切、差別はいけないという一定の理解が定着してきた。しかし、人権や差別の問題を自分の問題としてとらえられない、日常生活の中で行動や態度となって現れていないといった実態や、個別の人権問題に対して、かえってマイナスイメージをもたせ差別事象を引き起こさしてしまうという現状があった。それには、それぞれの個別の人権問題を自らの生き方にかかわる人権の問題としてきちんと受け止める基盤・土壌を確かにする「普遍的な視点からのアプローチ」の認識や学習の不十分さに大きな要因があったのではないだろうか(図1)。

この「二つのアプローチが相まって人権意識の高揚がはかられる」ということを具現化するために、奈良県の人権教育推進プランに示されている人権教育の基本方向である「教育を受ける権利の保障を通して」、「人権についての理解を深める教育として」、「人権を尊重する主体を育てる教育として」、「人権が尊重される教育として」の四つの側面からの具体的教育実践が必要である。

同和教育においても大切にされたが人権教育においても、教職員の主観的な指導に偏らない、児童生徒と共に学び合う学習という豊富な視点に立って指導しなければならないのではないだろうか。そのためにも教職員自らが多様な体験や研修を積むことを通して、人権教育推進のための知識、技能、態度及び感性を身に付けることが重要になってくる。

さらには、互いに認め尊重し合い、共に研修しながら質の高い人権教育を目指す教職員集団の形成が求められる。

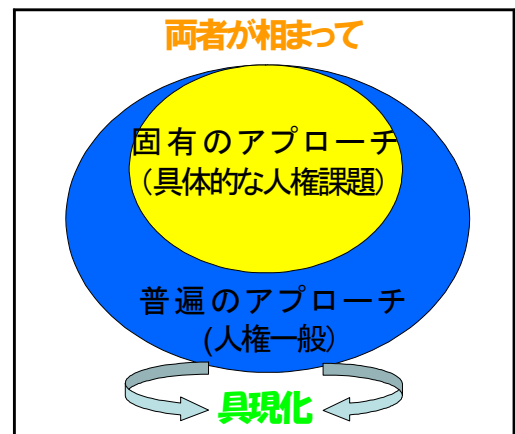


図1 二つのアプローチのイメージ

(2) 教職員の人権感覚を高めるための研修についての考察

人権教育の推進に当たり、指導者である教職員自身が人権及び人権問題に対する深い理解と認識をもち、日常の教育活動を人権が尊重された教育として行うためにも、研修の充実は不可欠である。また、児童生徒に人権に対する知識、技能、態度を身に付けさせるための学習方法として、知識伝達型だけでなく参加・体験型を取り入れた学習へとスタンスが移行してきたことに伴い、教職員の研修も従来の手法のみにとどまらず、より学習効果を上げるための創意工夫をしなければならない。

従来の研修で欠けていて今後必要になってくる視点の一つとして、教職員の「地域での体験からの学び」が挙げられる。異校種・福祉施設・企業・運動団体やボランティア等の仕事や活動を、単に見学するのではなく体験して学ぶのである。地域の人々と共に生活や労働をしながら学び支え合いうことで、互いの立場や考え方、さらに生き方や人生観までもが理解できるのである。

筆者自身、夜間中学で様々な境遇の人たちと学ぶ合うことで、生徒も教職員も一人一人が大切にされる学校の在り方を学んだ。福祉施設では、障害者の働く姿を知り、介助や共に生活をする中で、自らの障害者観の狭さや不十分さを自覚した。また、将来の自立のために「生きる力」をはぐくまなければならないという、障害児教育の一つの方向性を見いだすことができた。さらに企業研修では、店の営業や販売にかかわることで、新たな勤労観に出合うことができた(図2)。

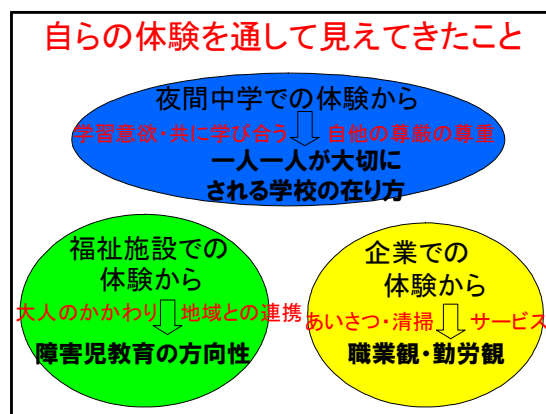


図2 筆者の体験からの学び

このような体験や地域の人々との出会い、かかわりを通して認識した様々な人権課題、世界観、勤労観、職業観、思いやりの心や公共心、さらに身に付けたコミュニケーション能力は、教職員としての人権感覚を磨くだけではなく、教材開発や人材ネットワークづくりにもつながっていくと考える。また、家庭訪問や地域の行事への参加においても、児童生徒の姿や生活背景、保護者や地域の人々の思いや願いが従来とは違った広い視野から受け止められるのではないだろうか。さらには外部から眺めて見えてくる学校の姿を知ることは、人権教育の推進はもちろんのこと学校運営においても大きな役割を果たすことになると考えられる。

(3) 学校、家庭、地域社会の連携についての考察

教職員の「地域での体験からの学び」を実りあるものとするためにも、また、児童生徒に豊かな人権感覚をはぐくんでいくためにも、学校、家庭、地域社会が共に子どもを育てていくという視点で、それぞれの役割を効果的に果たせるように連携・交流していくことが重要である。

そのためにも学校は、人権教育推進は自校の取組だけでは目標達成が不十分であることを認識し、地域への貢献も含めて信頼関係構築のために何が出来るかを考え行動する必要がある。

具体的には、学校は「家庭訪問での保護者との対話」をベースにしながら、「学校の教育活動の積極的な公開」、「学校での取組や身近な問題を中心とする地区別懇談会の双方向のコミュニケーションの重視」、「地域の公共施設との積極的な交流」等の取組を通じ、保護者や地域住民の理解と協力を得ながら、共に人権について学び合う機能を構築していかなければならない。

また、幼・保・小・中・高の校種間における連携・交流は、その必要性が以前から指摘されているにもかかわらず結局スローガンで終わっていることが多い。これは教職員の教育観の狭さやコミ

コミュニケーション能力の低さからくるものかもしれない。しかし、従来の機関会議だけのかかわりに終始しない、教職員相互の人間関係づくりを中心に据えた連携・交流を、できるところから具体的に始める必要がある。例えば、幼児児童生徒の発達段階に応じたカリキュラムづくりや地域教材の開発を共同で研究したり、校種を越えて授業研究を行ったりするなどの取組を通じて、系統的・継続的な人権教育の在り方を共に考えていくような関係づくりに努めていくようにすればよいのではないだろうか。

こうした大人たちの学び合いが、校内の児童生徒と教職員が学び合う人権教育推進の土台となっていき、また、人権文化に溢れた地域づくりの土台となっていくと確信する。

(4) 校内研修モデルプランの作成

学校で人権教育を推進するに当たり、教職員個々の研修や実践、保護者・地域・異校種との連携交流から学んだことは、全員で共有化していかなければならない。そのためにも共通の視点や認識が必要である。

人権教育はすべての教育活動を通じて行うものであり、日常の教育実践が最も大切にされなければならないという観点から、研究授業を核とした研修モデルプランを考察した。

ア 研究授業を核にして

研究授業は、全教職員あるいは学年部での設定も含めて全員が公開できるような体制にする。共有化を図るために児童及び校区の実情や課題を踏まえながらテーマを明確にする。そして、事前よりはむしろ事後研修に重点を置く。事後研修は、場合によっては講師や他校の教職員を招いたりしながら、児童の反応や実態から見える人権教育の課題、教材観、教職員の支援の在り方等について十分に論議をする。結果として、参加者全員が自らの実践を点検することで今後に意欲をもって臨めるような内容を構築していきたい。

さらに、研究授業を核とした研修を効果的に機能させるために、先に述べた人権教育推進プランの四つの側面との関連から次のように考えた。

イ 人権教育推進プランの四つの側面との関連から

(ア) 学力調査・生活実態アンケート

すべての児童に基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせるための学力保障の取組は、進路保障や自己実現の視点においての大きな課題である。児童の学力実態を客観的に把握するためには、継続性・系統性のある県の教科等研究会が行っている学力テスト等の結果を分析することにより、指導法や学習活動の改善につなげなくてはならない。同時に生活実態アンケートも実施し、児童の学力の背景にある生活実態を把握し、学力保障の取組に生かしていくことも大切なことである。

学力調査や生活実態アンケートの実施については、反対論や慎重論も予想されるが、あくまでも児童の実態から学ぶ取組をつくることを目的に実施することで共通理解を図る。調査やアンケート結果の分析を基に全教職員で課題を探り、学習者を主体とした分かる授業の創造に向け内容や方法について研究を行い、授業改革を進めていく。

(イ) 人権の課題について

人権についての理解を深める教育として、部落問題、障害者問題、在日外国人問題、いじめ・不

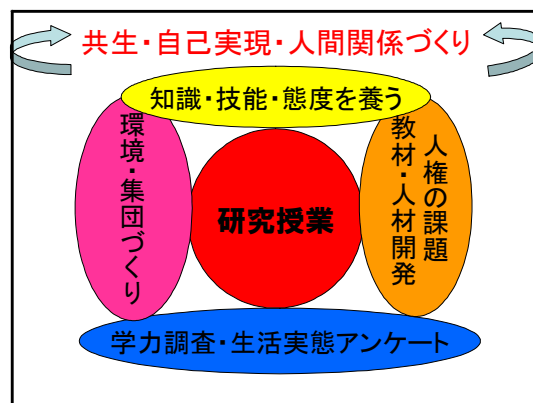


図3 校内研修モデルプランの概要

登校、男女共生や高齢者問題等の、児童が背負わされていたり地域の中に存在したりする人権の課題については、まず教職員が家庭や地域に出向きその現実を把握することが必要である。それを校内で児童の実態から見えた問題を中心に申し合い、学校としての課題を教職員が共有化できるような研修をもち、それを克服していくための教育実践を図っていく。

また、人権教育に関する各種研究団体、運動・福祉団体、NGO・NPOなどの実践や理論等について、フィールドワークや体験、聞き取り等の活動を通してその歴史や現状を知り、解決に向けての具体的手段を学ぶことは大切なことであり、新たな教材づくりにもつながっていく。

話を聞いたり、書籍を読むことで知識を得るという研修だけではなく、人権の課題に取り組んでいる人の生き方に学ぶことで、自らの生き方を人権の課題とのかかわりの中で考え行動できるような研修を積み重ねていきたい。

(ウ) 地域教材開発・研究

人権についての理解を深める教育を推進するための教材・人材開発においては、人権というものを児童に身近なものにとらえさせるためにも、校区に目を向けることが第一義である。

児童が自分たちの住んでいる校区に誇りをもてるような、また人権の課題克服のための道標となり得るような教材や人材を、校区に足を運び観察や聞き取りをするという作業を中心に、地域とコミュニケーションを図りながら開発していかなければならない。

開発した教材や人材は、日々の授業を中心とした教育活動において効果的に活用するためにも、研究授業を通して研究を重ねながらその教育的価値の共有化を図りたい。こうして教職員が築き上げた教材や人材をデータベース化し、学校の財産として全員で共有し活用できるようにする。

表1 教材・人材開発例

手 法	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク、ウォークラリー ・人権についての公共施設や博物館の活用 ・校区在住の人権、福祉にかかわる活動家や学校の元教職員への聞き取り ・学校の歴史を知る ・歴史的文化的遺産の研究 ・継承されてきた地域行事や習慣の探訪 ・伝統的産業を調べる
具 体 例	<ul style="list-style-type: none"> ・水国争闘事件 ・コミュニティセンター ・児童館 ・大和川治水にかかわるポンプ場建設 ・小学校統合にかかわる問題 ・識字学級 ・中街道に残る坪跡にみる洪水の歴史 ・校区に残る伝承歌、民話、伝説、遺跡 ・しめ縄作り ・地藏盆、秋祭り ・ふすまの引き手生産(全国シェア90%)

(エ) 環境・集団づくり

日々の授業はもちろんのこと、環境づくりや生活（生徒）指導においても、人権が尊重される教育推進について研修・協議しながら、以下の点について点検・改善を図り、児童一人一人が大切にされ、楽しく学習や生活ができる学校になるよう努めなければならない。

- ・児童の健康や安全が守られる施設設備の整備及び保健衛生指導や安全指導
- ・いじめや体罰のない、受容や共感のある人間関係と集団づくりを土台とした学校や学級の雰囲気づくり
- ・学級経営や学校のきまり等に反映される、個性を重視した教育活動
- ・児童会活動や行事等、児童の自主性や主体性を重視した活動の支援

(オ) 知識・技能・態度を養うために

人権を尊重する主体を育てる教育を推進するためには、まず教職員自らが人権を尊重する主体としてどう生きているのかを点検しつつ、児童に付けさせたい力（知識・技能・態度）を確認しながら、共に力量の向上が図れるような教育実践に努めていきたい。

表2 児童に付けさせたい力

知 識	技 能	態 度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的人権について理解する ・ 地域の様々な人との交流を通して、互いの人権を尊重し合う大切さを知る ・ 様々な人権問題について 歴史や現状について知る 課題解決の取組を学び、課題を克服するための方法を考える ・ 身近な人権侵害に気付き、人権を守る大切さを知る ・ 反戦平和や環境汚染について考える ・ 集団生活を通して、自分の役割と責任について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えや思いをつづり、語り、表現する力 ・ 他者の考えを聴き、意見と偏見を識別する力 ・ 情報を収集する力及びそれらを多面的に分析し、そのなかに存在する差別性を見抜き、客観的公平な結論を導き出す力 ・ コミュニケーションの力 ・ 相手の立場に立って考える力 ・ 違いを認め、受け入れる力 ・ 話し合いで問題を解決する力 ・ 異なった価値観の人ともプラスの関係をつくる力 ・ 決断し、責任をもつ力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ありのままの自分を受容し他者と対等で協力的な関係を築こうとする生き方 ・ 社会的な不正義や不公平を許さず問題解決に積極的に貢献しようとする態度

5 研究結果と考察

児童生徒に付けさせたい力（知識・技能・態度）とは、裏返せば、教職員が付けなければならない力でもある。児童生徒と共に学ぶ人権教育はその前提として、教職員が自らの生き方を問いながら謙虚に学ぶ姿勢を身に付けるということではないだろうか。さらには教職員集団として、自他の尊厳を尊重しながら相互の対話を大切に、様々な価値観や意見に向き合い葛藤する過程を重視する関係をつくっていくことも大切なことである。

そして4(4)で考察したように研究授業を核にした校内研修を進めることで、自己実現を可能にし多様な人々との共生や豊かな人間関係を築く力をもった児童生徒の育成を共通認識とした人権教育を推進することができるのではないだろうか。

6 今後の課題

今後は、児童生徒と教職員の関係、保護者と教職員の関係や地域と学校の協力関係の在り方を探りながら、更に幅広い視点からの人権教育を推進していきたい。

教育改革のうねりの中で、今問われているのは教職員一人一人の人間性であり人権感覚であると考えられる。今後も前向きな姿勢で教育実践に励んでいきたい。

参考・引用文献

- | | | |
|--------------|-----------------------------------|------|
| (1) 奈良県教育委員会 | 人権教育の手びき 第45集 | 2003 |
| (2) 奈同推協事務局 | 豊かにつながる地域社会づくりを(「実践」103号)奈人教・奈同推協 | 2002 |
| (3) 京都市教育委員会 | 小学校人権教育(平成12年度研究紀要) | 2000 |
| (4) 寺澤亮一 | 人権教育としての同和教育を(「部落解放」452号)解放出版社 | 1999 |
| (5) 池田 寛 | 地域と学校の「つながり」と「協働」を求めて 解放出版社 | 2001 |
| (6) 解放教育研究所 | 豊かな人権総合学習をつくる(「解放教育」431号)明治図書 | 2003 |
| (7) 佐藤 学 | 学校を創る 小学館 | 2000 |